

第2期高洲中学校区小中一貫教育推進計画

見つけよう夢！育てよう心！ た か す の仲間と

～「人」「もの」「こと」との出会いがいっぱい～



令和7年3月

高洲中学校区学校運営協議会

目 次

ページ

I 計画策定にあたって

1 本計画の位置づけ	1
2 これまでの経緯	2
3 成果と課題	3

II 高洲中学校区小中一貫教育方針

1 高洲中学校区で育てたい子供像	4
2 推進方法	5
3 推進形態	5

III 具体的な取組

取組内容	6
------	---

IV 計画年次

計画の期間	11
-------	----

V 資料

1 学校運営協議会委員（令和6年度）	12
2 用語解説	13

I 計画策定にあたって

1 本計画の位置づけ

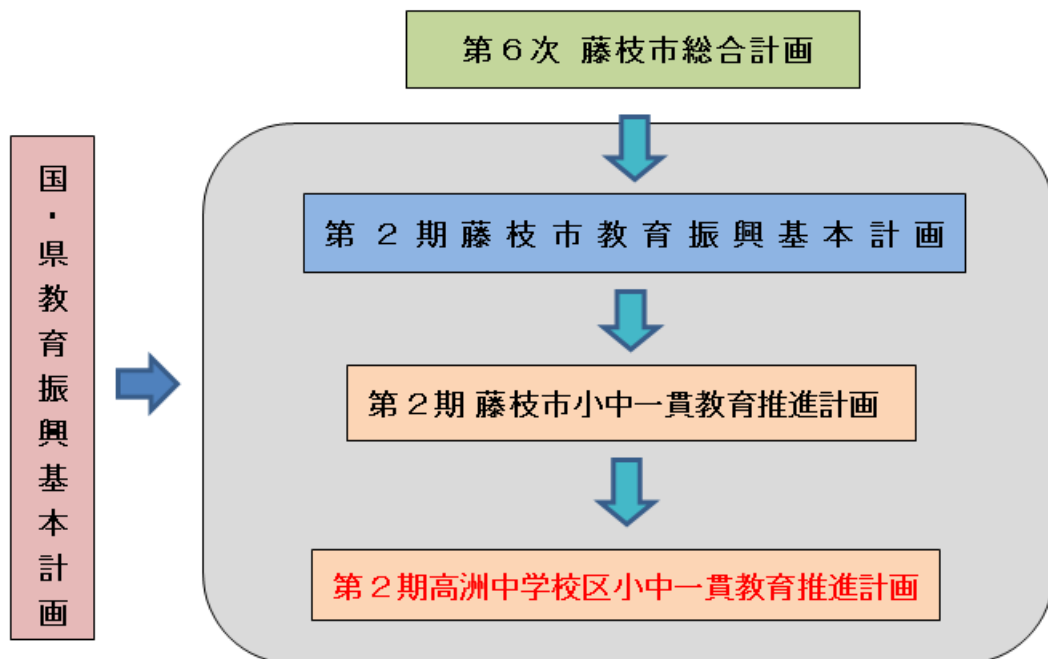
小中一貫教育は、「第6次藤枝市総合計画」における七つの基本目標の内の一つである「子供が健やかに学び、育つ藤枝づくり」の「学校教育の充実」の中の施策として、「小中一貫教育の推進」を位置づけています。

また、「第2期藤枝市教育振興基本計画（教育大綱）」においても「個が輝き、未来を切り拓く力を育む学びの充実」を目標とし、施策の一つに小中一貫教育の推進を掲げています。

「第2期藤枝市小中一貫教育推進計画」は、今後の本市における小中一貫教育を推進するための基本理念や基本方針及び取組事項を定めており、これを受けて中学校区ごとに小中一貫教育推進計画を策定しています。

本計画は、「中学校区小中一貫教育推進計画」の高洲中学校区版となるもので、前計画における5ヵ年計画での取組・実践を踏まえて、学校運営協議会で協議を重ね策定し、「第2期高洲中学校区小中一貫教育推進計画」として位置づけます。

高洲中学校区小中一貫教育推進計画の位置づけ



2 これまでの経緯

高洲地区は、昭和50年まで高洲小学校・高洲中学校が同一敷地内で校舎が隣接しており、小学生、中学生共に互いの様子を目にすることができ、交流も自然に生まれていたという歴史があります。

児童数増加に伴い、昭和56年に高洲南小学校が新設され、3校となっても高洲地区としてのまとまりは揺るがず、教育振興会や青少年健全育成推進会議を中心に伝統的に地域と学校が一体となった教育が進められている地域です。

平成16年度に静岡県教育委員会から高洲小学校が、翌年に高洲南小学校が「小学校英語活動充実のための支援事業」の2年間指定を受け、高洲中学校の英語科教員に加え、近隣高等学校の英語科教員も参加し、中学校、高等学校の英語教育を見据えた小学校の英語活動のあり方を研究し、両小学校の研究発表会には県内外から多くの教員が参加しました。特に小中学校接続を意識した研究実績が評価され、平成19年から、2年間文部科学省、県教育委員会より「小学校における英語活動等国際理解活動推進事業」拠点校指定を受け、平成23年度から開始された小学校での英語教育のモデルを地域に示してきた経緯があり、高洲地区の英語教育は注目を浴びてきました。

それゆえ、平成23年度から始まった小中学校連携ドリームプラン事業^{*1}では、小・中学校接続した英語教育と地域、家庭、学校が連携した「すこやか三ヶ条」の取組を継続的に積み上げてきました。

令和3年11月、令和5年9月には高洲中学校区学校運営協議会の主催で、高洲小、高洲南小児童会・高洲中学生徒会代表が参加し、『高洲地区あいさつ子どもサミット』を開催しました。子どもサミットでは“あいさつを高洲地区の自慢にする”ことを宣言し、高洲地区で人と人とのつながりが広がることを願っています。

また、高洲地区では以前より、こども園・幼稚園も含めた、こ幼小中合同研修会を毎年開催しています。この研修会には学校運営協議会委員も参加し、高洲地区幼小中一貫教育の理解と推進を図っています。この他、高洲南小の学習指導研究会に高洲小・高洲中の教員が参加するだけでなく、小中の接続をさらに円滑なものにするために、令和5年度からは夏期休業中に終日の3校合同研修会を開催しています。



(あいさつ子どもサミット)

3 成果と課題

【成果】

(1) 社会的資質の向上

- ・あいさつ子どもサミットを開催し、あいさつを軸に地域で子供たちを育てようとする方針が明確に打ち出されました。そして、子供たちのあいさつに対する意識が高まり、地域へもあいさつを広げていこうとする意欲も高まりました。

(2) 確かな学力の習得

- ・幼稚園、小学校低学年においても外国語活動を実施することで、コミュニケーションを楽しむ素地が養われています。小学校2校において、外国語の授業でオンラインでの合同授業を行い、中学校入学前に交流を深めることができました。
- ・I C T *₂活用能力において、小1から中3までの学年ごとの指導系統表を作成しました。その結果、中学校入学時の活用力の個人差が小さくなりました。

(3) 豊かな人間性の育成

- ・中学生が小学校においてあいさつ運動をするT C S（高洲中清兵衛）活動は、先輩への憧れの連鎖を生む活動となっています。
- ・郷土の偉人である「石上清兵衛さん」に関連する活動を展開し、郷土を愛する心を育むことができます。

(4) 地域を担う人材の育成

- ・読み聞かせ、米作り、野菜作り、昔の遊び体験など、様々な教育活動を地域が支援し、子供たちと地域の方々の絆を深めることができます。
- ・3校で株式会社 Your Life（静岡県中小企業家同友会）の協力の下、9年間を見通したキャリア教育 *₃を展開させることができます。

(5) 教職員の指導力向上

- ・毎年開催するこ幼小中合同研修会や3校合同研修会を通して、教職員の相互理解を深め、教育観や指導観、子供観を共有することができます。また、小中一貫教育の重要性を確認することができます。

【課題】

- ・高洲地区3校は、規模も大きく学校間の距離もあるため、小中の乗り入れ授業 *₄は難しい状況にあります。今後は、中学校の教員による小学校での体験授業等を計画的に実施する必要があります。
- ・教科担任制を実施している小学校高学年の教科において、中学校の教員との授業、教科について研修する場をさらに充実させることにより、中1ギャップ *₅の解消につながることが期待できます。

Ⅱ 高洲中学校区小中一貫教育方針

1 高洲中学校区で育てたい子供像

本市が目指す「未来を生き抜く力の育成」のために、本地区の子供たちの実態に即しながら、地域の願いを込めたキャッチフレーズと、小学校と中学校の教職員が相互に連携・協力しながら、小学校と中学校が一貫して育てたい子供像を設定しました。

温かな地域・家庭に見守られ、子供たちは健やかに育っていますが、一層変化の激しい次代をたくましく生き抜く力をつけるためには、小中学校9年間のスパンで、一人一人の子供たちが夢や目標を持ち、それに向かって仲間と支え合い、高め合いながら、自ら考え、行動できるように地域総ぐるみで支援していきたいと考えます。

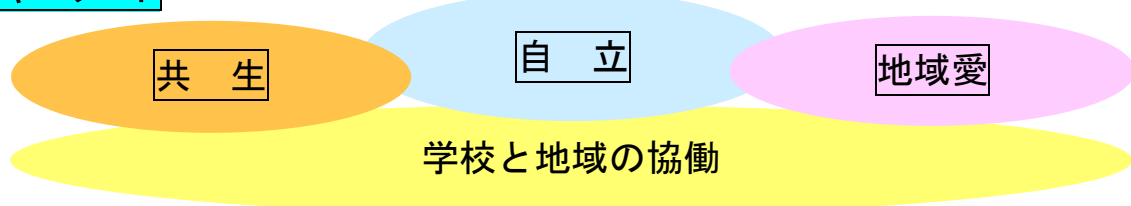
ここ、高洲の地には「人」・子供たちを導く親や教職員、温かく見守る地域の方々、「もの」・自分を生み育ててくれた地域の自然や歴史、文化、「こと」・地域や学校の行事など、子供を取り巻く様々な恵まれた環境が整っており、これらを生かすことで子供が関わるができる多様な体験を創出できます。

このようにして、自ら考え、行動する体験や、人のため、地域のために行動することができるような機会を作り、励まし、多くの人との出会いを通して高洲の子供たちは成長していくものと確信しています。

キャッチフレーズ

見つけよう夢！育てよう心！**たかす**の仲間と
～「人」「もの」「こと」との出会いがいっぱい～

キーワード



高洲地区の教育を通して育てたい子供の姿

人のため 地域のために 自ら行動する子

思いやりの心を持ち 仲間と高め合う子	<共生>
目標に向かって 自ら考え行動する子	<自立>
高洲を愛し 高洲で活躍できる子	<地域愛>

2 推進方法

本地区においても、第2期藤枝市小中一貫教育推進計画に合わせ、以下の項目に沿った「Ⅲ 具体的な取組」(P6～)事業を展開していきます。

第2期藤枝市小中一貫教育推進計画の推進方法

(1) 社会的資質の向上 ～ ふれあいでつなぐ ～

コミュニティ・スクール^{*6}での家庭・地域・学校などの連携・協働により、子供たちの社会参加の機会を充実させ、地域の人と触れ合う体験をする中で、自己肯定感^{*7}(自尊感情)を高め、社会を生き抜くたくましさ、社会の変化に適応する能力や社会性を育成します。

(2) 確かな学力の習得 ～ 学びをつなぐ ～

9年間を見通した系統的・継続的な学習指導や学習習慣の確立を図るとともに、コミュニティ・スクールとの連携により地域人材を活用した授業を推進し、子供の学習意欲の向上や確かな学力の習得に努めます。

(3) 豊かな人間性の育成 ～ 夢・希望をつなぐ ～

各中学校区で積み上げた教育活動、児童生徒間の多様な交流や、コミュニティ・スクールでの地域との交流などにより、豊かな人間性や思いやりの心を育みます。

(4) 地域を担う人材の育成 ～ 地域でつなぐ ～

コミュニティ・スクールを通して、家庭・地域・学校等が一体となった教育環境づくりを推進し、地域に愛着と誇りを持ち地域に貢献する人材を育成します。

(5) 教職員の指導力向上 ～ 教えをつなぐ ～

小中一貫教育コーディネーター^{*8}が中心となり、小中学校等の教職員が合同研修会や合同授業研修会等の交流を行うことを通して、相互理解を深め、9年間を見通した教育を展開し、子供一人一人の学びの保障に努めます。

3 推進形態

コミュニティ・スクールの活動をさらに充実させ、家庭・地域・学校などが連携・協働した「地域とともにある学校づくり」の充実を目指していきます。

各学校において、小中一貫教育を推進する担当教員を「小中一貫教育コーディネーター」として位置づけ、コミュニティ・スクールディレクターと連携しながら、小中一貫教育の更なる推進を図っていきます。

Ⅲ 具体的な取組

取組内容

(1) 社会的資質の向上

家庭・地域・学校の連携・協働により、子供たちの社会参加の機会を充実させる中で、自己肯定感（自尊感情）を高め、社会性を育成します。

① 育てたい子供像の共有化

- ・小中学校教職員だけでなく、保護者、地域住民も趣旨を理解し、子供が人のため、地域のために行動する場を作ったり、キャッチフレーズを合言葉に親はもちろん大人がいろいろな場で子供に声をかけたりして家庭・地域・学校等が一体となった教育環境づくりを推進します。

② 地域ぐるみで「高洲すこやか三ヶ条」の実践

- ・親が家庭内はもちろん地域でも率先してあいさつをし、子供に手本を示すようPTA活動でも重点的に取り組みます。
- ・中学生を中心にあいさつを地域全体に広げます。
- ・日々のふれあいから生まれるコミュニケーションを大切にすることで、あいさつの日常化をはかります。

③ ふじえだ型ピア・サポート活動*9の充実

- ・「心を込めて聴く・話す」を授業の中で大切にし、思いやりの心や支え合う態度を日々の授業で育成します。
- ・PTA活動では、子供を前面に出す活動を大切にし、親子で奉仕活動をしたりするなど親子で共に活動する機会を大切にし、社会参加の大切さや人との関わり方を親が伝えます。

④ 社会参加の機会の充実

- ・地域の大人と子供が触れ合う活動を通して、社会性を育てることに努めます。そのために地域の行事（ふれあいまつり等）に小中学生が積極的に参加し、地域は「大人の背中を見て育つ子供」を育みます。



(高洲中：鷹の羽体育祭)



(昔の遊び体験)



(地域の方から地域の偉人「石上清兵衛さん」を学ぶ)

⑤ 規範意識の高揚や基本的な生活習慣の定着

- ・地域で築いたルールやマナーを親や家族が手本となり子供に伝えます。時代が変わっても大切にしなければいけないことを大切にできる子を育てます。

家庭・・・親が地域と関わりを持つ機会を増やします。

地域・・・地域の子供は地域で育てる体制作りを強化します。

⑥ 自己肯定感の醸成

- ・親や教職員は、子供に寄り添い、一人一人の良さを認め、その子らしさを引き立てる姿勢を心がけ、子供の育ちをサポートします。
- ・家庭・学校・地域は、子供一人一人の良さを見た時にその場で褒め、認めることで、子供の自己肯定感を高めます。



(高洲南小：わくわく班づくり集会)

⑦ キャリア教育の推進

- ・小学校では仕事の大切さがわかり、係活動等を通して責任を果たし、役立つ喜びを体得し、中学校では職場体験学習を推進することなどを通して自己肯定感や職業観を育みます。
- ・地域の様々なスペシャリストをゲストティーチャー*10に招き、キャリア教育を進めます。



(いもほり)



(小学校：職業体験)



(中学校：職場体験)



⑧ 対人関係能力（コミュニケーション能力*11）の育成

- ・学校では集団生活を通して他者を尊重し切磋琢磨しながら、お互いを高め合う力を育てます。特に行事や学級指導で、人との関わり方を体得していきます。
- ・地域ぐるみであいさつの日常化に努め、日々のふれあいから生まれるコミュニケーションを大切にします。
- ・対人関係上のマナーを意識した指導を家庭・地域・学校が連携して取り組みます。

（２）確かな学力の習得

授業を充実させ、義務教育 9 年間を見通した系統的・継続的な学習指導により、子供の学習意欲の向上や学習習慣の確立を図り、確かな学力を育成します。

① 基礎的・基本的な知識・技能の定着

- ・教職員は、藤枝市小中一貫教育カリキュラム＊12 を活用し、教科等の系統性・連続性を踏まえながら、発達や学年の段階に応じて、基礎的・基本的な知識・技能を習得させます。

② 知識・技能を活用した思考力・判断力・表現力の育成

- ・「自ら考え、つなげ、深める」授業を推進し、児童生徒の思考力・判断力・表現力を育成します。
- ・開校当時から授業研究に取り組んでいる高洲南小学校の実践を共有し、児童生徒一人一人の学びがより主体的で深まるような授業づくりを心がけています。
- ・小学校高（中）学年からの一部教科担任制を取り入れ、中学校専科教員の体験授業を計画的に実施します。

③ 国際性を育む外国語教育の充実

- ・国際感覚を育成するため、県の特別非常勤講師を活用し小学校 1 年から外国語活動を実施し、9 年間を通してグローバル社会に対応した国際性とコミュニケーション能力を育成します。また、高洲地区の幼稚園も英語に慣れ親しむ環境づくりに努めており、地域を挙げて外国語教育の充実を図っています。

④ 対話（コミュニケーション）能力の育成

～「聴く・話す」を大切にした教育～

- ・コミュニケーションの取り方の重点として、授業中に「聴く」ことを大切にし、人の話を温かな態度で聴き、話す時には聴き手を意識しながら、心を込めて「話す」ことを 3 校で取り組みます。

⑤ 判断力（情報選択・活用力）の向上

- ・ICTを活用した授業では情報選択場面や判断を要する場면을意図的に設定し、子供が主体的に判断する機会を作り、根拠を持って判断する経験を増やします。



（ICTを活用した授業）



（「聴く・話す」を大切にした授業）

(3) 豊かな人間性の育成

児童生徒間の多様な交流活動及び地域との交流により、豊かな人間性や思いやりの心を育みます。

① 道德教育の充実

- ・ 9年間の系統性のある道德教育に努め、地域の偉人「石上清兵衛さん」の生き方を伝え、郷土愛を深めます。
- ・ 家庭では親が働きかけ、良いこと悪いことをきちんと教えるよう努めます。

② 小学生と中学生の異学年交流

- ・ 中学生の小学校でのあいさつ運動を通しての交流活動を行います。
- ・ 中学生が小学校に出向き、あいさつ運動を実施し、その言動が小学生のモデルになります。
- ・ 小学生には年長者への憧れと尊敬の念が、中学生には年少者への思いやりと小学生の目標やモデルになろうという意識が育まれます。

③ 三世代交流

- ・ 「地区運動会」「ふれあいまつり」等の地域行事で三世代が触れ合うことを通して、誰とでも仲良くするという体験を重ね、良好な人間関係を生み出します。
- ・ 地域の行事を様々な世代と共に楽しみながら、他人を思いやる心や感動する心、さらには規範意識、自己有用感、協調性などの豊かな人間性を育みます。
- ・ 高齢者、幼稚園、保育園児との交流の機会を通し、思いやりの心を育てます。

④ ボランティア活動の推進

- ・ 郷土の偉人である「石上清兵衛さん」を模範としたボランティア活動（高洲中学清兵衛ボランティア活動略してT C S活動・貢献活動・V S活動^{*13)}）を小学校では児童会本部・中学校では生徒会本部がリーダーシップをとって積極的に行っていきます。人のために尽くすことを体感し、社会貢献の意義を体得します。
- ・ 地域あいさつ運動、保育園でのボランティア、高齢者施設訪問などは、今後とも良き伝統として、小中9年間で継続して取り組んでいきます。



〈マスコットキャラクターの制作〉

(専門学校・卒業生との交流)



(高中生によるあいさつ運動)



(1年生と年長との交流)

(4) 地域を担う人材の育成

家庭・地域・学校の連携・協働により、同一步調で教育環境づくりを推進し、地域に自信と誇りを持ち地域に貢献する人材を育成します。

① 地域の一員としての自覚の醸成

- ・地域防災活動では、担架で運ぶ訓練やバケツリレーなどに子供たちが大人と一緒に積極的に参加しながら、自らの役割を考える機会をとらえ、地域への参加意識を育みます。
- ・学校は小学校生活科や社会科、小中学校の総合的な学習の時間などで地域の歴史や文化等を地域の方に学ぶ機会を設け、地域を知り、先人の思いや地域の伝統に触れ、地域社会への関心（地元意識）を高めます。
- ・家庭では、親が子供とともに地域行事などに参加し、地域の構成員としてのあり方の手本を示します。

② 社会に開かれた教育課程の推進

- ・ふれあいまつりなどの地域行事では、学校と地域の連携を深め、中学生がボランティアとして参加するなどして、子供の地域の一員としての自覚や自主性、共生の意識を育みます。
- ・教科等の専門的分野（音楽、家庭科など）で地域の達人をゲストティーチャーに招聘し、アドバイザーをお願いするなどして、地域の方々との絆を深めながら地域への愛着心を育みます。



(ふれあいまつり)

③ 地域との交流の場の拡大

- ・ふれあいまつりなどで地域の方々とのふれあいや交流の機会を通して人の温かさにふれ、地域や地域に暮らす人々への愛着を深めます。
- ・子供が社会福祉的行事で計画段階から参加し、子供の考えを活かした子供も大人も楽しめる場をつくるよう努めます。
- ・町内会ごとの地域活動にも子供がボランティアなどで参画できるようにします。



〈調理実習〉



〈読み聞かせ〉



〈稲作体験〉

(地域の支援)

（５）教職員の指導力向上

合同研修会、小中教職員の交流を通し、小中学校教職員が相互理解を深め、９年間を見通した教育を展開し、児童生徒一人一人の学びの保障に努めます。

① 教職員の交流

- ・ ３校の教職員は授業公開日などを活用し、互いの授業参観をするなど授業力向上に努めます。
- ・ 外国語教育に関しては３校で担当が連絡を取り合い、進度調整や教材研究等を行います。

② こ幼小中合同研修会の充実

- ・ こ幼小中合同研修会では、学習、生活、特別活動などの教育活動の系統化を図ります。
- ・ 分掌等に分かれて協議を深め、共通指導内容などを検討します。
- ・ 情報交換を密にしながらこども園、幼稚園から中学校までを意識した研修を充実します。
- ・ ３校、２園の授業を見合いながら、授業について協議し、情報を共有しながら学習指導の質を高めます。



（こ幼小中合同研修会）

③ ３校合同研修会の実施

- ・ 教職員の相互理解を深め、教育観（指導観・子供観等）を共有します。

④ 「育てたい子供像」に向けた共通理解の促進

- ・ P D C Aサイクル^{*14}に基づき、子供たちの育ちを小中学校で確認する場として担当ごとの情報交換会を開催します。



（高洲南小研究発表会）

Ⅳ 計画年次

計画の期間

本計画は、令和７年度を初年度とし、令和11年度を目標年度とする５か年計画とします。

ただし、社会情勢の変化や国・県の施策と連動するため、基本的には５年後に見直しをしていきますが、上位計画である「第２期藤枝市小中一貫教育推進計画」と連動する中で、必要が生じた場合には随時改訂していきます。

V 資料

1 学校運営協議会委員

令和6年度高洲中学校区学校運営協議会委員名簿（敬称略）

	氏名	所属団体等
1	谷澤 靖策	高洲学園理事長
2	大久保 達夫	第三自治会長・社会教育部長・CSディレクター
3	伊藤 悦治	第二北自治会長・青少年健全育成部長
4	南雲 初義	元民生委員
5	佐野 吉孝	主任児童委員
6	佐藤 皆緒	元県PTA連絡協議会会長
7	佐藤 裕	高洲地区交流センター長
8	曾根 貞夫	学校サポーターズクラブ コーディネーター
9	石上 静夫	学校サポーターズクラブ コーディネーター
10	佐藤 真理子	高洲小学校PTA会長
11	高橋 美代子	高洲南小学校PTA会長
12	清水 孝之	高洲中学校PTA会長
13	天野 和博	高洲小学校長
14	山下 由花	高洲南小学校長
15	飯塚 稔文	高洲中学校長
16	武藤 啓央	高洲こども園・高洲南幼稚園長
17	山下 泰	CSディレクター

2 用語解説

アルファベット

ICT（アイシーティー）【P3 *2】

Information and Communication Technology の略。コンピュータや情報通信ネットワーク（インターネット等）などの情報コミュニケーション技術のこと。社会の情報化が急速に進展する中で、学校においても、コンピュータやインターネット、デジタルカメラ、タブレット、電子黒板等の ICT が多様な学習のための重要な手段として活用されれば教育の質の向上が図れると期待されている。



（ICTを活用した協働的な学び）

PDCAサイクル【P11 *14】

典型的なマネジメントサイクルの1つで、計画（Plan）、実行（Do）、評価（Check）、改善（Action）のプロセスを順に実施する。

教育施策においては、目標を明確に設定し（Plan）、実施し（Do）、その成果を客観的に検証し（Check）、その結果を改善して次の教育施策に反映させる（Act）という循環サイクルのこと。

VS活動【P9 *13】

ボランティアサービス活動の略。「他のために今の自分にできることはないか」を考え、自分ができることを進んで行う活動。青少年赤十字（JRC）活動として取り組んでいる事例が多い。



（PTA親子奉仕作業）

か行

キャリア教育【P3 *3】

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育のこと。



（職業体験）

ゲストティーチャー【P7 *10】

子供の視野の拡大や専門性に触れる機会づくりのために、総合的な学習の時間や道徳等で指導者として、特別に学校に招き、指導をする人のこと。各種の職業人やボランティア活動に取り組む人、様々な趣味を持つ人など、その道の専門家が多い。

コミュニケーション能力【P7 *11】

国際社会を生き抜く異文化コミュニケーション能力、世代間コミュニケーションの問題を克服する能力、楽しい学校生活を送るための人間関係を形成していく能力など、これからの時代を生きる子供たちにとっての基礎的な能力。

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）【P5 *6】

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、各教育委員会が地域住民、保護者などにより構成される「学校運営協議会」を設置し、学校運営や学校の課題に対して、学校と保護者や地域住民がともに知恵を出し合い、協議し、一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支え、「地域と共にある学校づくり」を進める仕組みのこと。



（学校運営協議会：高洲こども園）

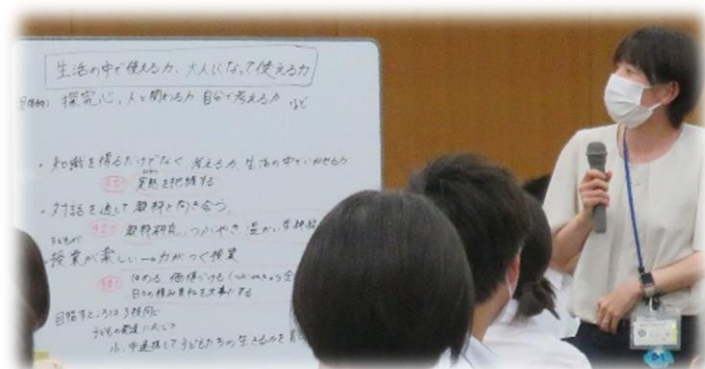
さ 行

小中一貫教育コーディネーター【P5 *8】

小中一貫教育を中心となって推進していく学校内の担当をいう。令和4年度から藤枝市内全小中学校にこの担当を配置している。コミュニティ・スクールディレクターと連携し、学校間や学校と地域を繋ぐ。高洲地区3校においては、各校の主幹教諭を小中一貫教育コーディネーターとして任命している。

小中学校連携ドリームプラン事業【P2 *1】

児童生徒の確かな成長のため、地域での9年間を意識し、同一中学校区の小中学校が連携して取り組む藤枝市独自の事業。子供たちが夢を持ち、教職員にとっても教育研究となることを目的として平成23年度から始まった事業である。令和5年度からは、教育連携推進事業となっている。



（3校合同研修会）

自己肯定感【P5 *7】

ありのままの自分を認め受け入れる感覚のことで、自分の存在そのものに対する評価のこと。「自分が自分であって大丈夫」と、自分を肯定的に受け入れる心の状態を示す。自尊感情ともいう。



（高洲小：たかすつ子祭）

た 行

中1ギャップ 【P3 *5】

小学校から中学校に進学したときに、学習や生活の変化になじめず、いじめや不登校などのさまざまな困難を抱えてしまう生徒が増える現象のこと。いわゆる「問題行動等調査」の結果を学年別に見ると、小6から中1で不登校数等が急増するよう見えることから使われ始めた。

な 行

乗り入れ授業 【P3 *4】

中学校教員が小学校で教科担任をしたり、ティームティーチングで指導を行ったり、小学校教員が中学校で授業を行うこと。



〈異学年の活動〉

は 行

(ピア・サポート活動)

ふじえだ型ピア・サポート活動 【P6 *9】

児童生徒同士など同じ立場の仲間同士で思いやり支え合う実践活動のこと。

子供のコミュニケーション能力や、思いやりの心を育むことを目的とした、子供自身が自発的に行う活動。ボランティア清掃から友達への声かけといったさりげないものまで、「人のためになる、仲間を助ける活動」のことを指す。ふじえだ型とは思いやり溢れる学校風土を醸成していくことをねらいとし、これによって悩みを抱えたり、友達関係をうまく結べなかったりして何らかのサポートを必要とする子供たちへの支援につなげようとしている部分で、「人と支え合い、つながり、かかわり合う活動」を指している。

藤枝市小中一貫教育カリキュラム 【P8 *12】

「授業で人を育てる」を合言葉に、藤枝市で伝統的に取り組んできた藤枝型授業を意識し、平成29年3月に改訂された新学習指導要領をベースに、藤枝市内教職員を中心にして作成した小中一貫教育のための小中学校9年間における各教科の教育内容計画のこと。

藤枝市が取り組む小中一貫教育を推進する一つの柱として、学習指導のつながりを明確にし、基本的な知識及び技術の確実な習得を目指すとともに、全教職員が9年間を見据えた質の高い指導を行うことができるよう、全教科と特別支援教育分野で作成。藤枝市教職員全員に配付している。



(「授業で人を育てる」)



第2期高洲中学校区小中一貫教育推進計画

令和7年3月

高洲中学校区学校運営協議会

藤枝市教育委員会 教育政策課